



羽村市立栄小学校
学校だよりNO. 4
令和7年6月27日

こんなよいところがある！

副校長 山田 美佳

子供たちを育てるときには、どんな心がけが必要だと思いますか。毎日の生活の中で、どちらかという、褒めることよりも叱ってしまうことが多い…のではないのでしょうか。

子供を褒めること、子供に期待することによって、その通りの成果を出すことができる、ということがあるそうです。これを「ピグマリオン効果」といいます。

アメリカの教育心理学者ロバート・ローゼンタールが説いた説です。ある小学校の子供たちにテストを行い、その中から無作為に数名を選び、「この子たちは、絶対に伸びる。」という情報を教師に伝えました。その情報を信じて、教師が子供たちに期待を込めて指導したところ、本当にその子たちの成績がぐんぐんと伸びていったそうです。

学校や家庭で「あなたには、こんなよいところがある。だから、きっと伸びていく。」と応援された子供たちほど、ぐんぐん伸びていったという例もあるそうです。私たち大人が、子供たちの可能性を信じて「必ず伸びる。」と応援してあげれば、本当にそうなる！ということがあるというのです。

反対に、「あなたはだめだ。」と言われ続けていると、本当に成績が下がったり、能力が落ちてしまったりすることもあるそうです。

これを「ゴーレム効果」と言います。「これ以上伸びないのかなあ。」「練習しても無理かもしれないなあ。」「努力しても夢はかなわないかも。」などと、消極的・否定的な言葉を一つかけられるだけでも、子供たちの自信が消えてしまうかもしれません。

世の中には、「ピグマリオン効果」を受けて、自分の可能性を信じて力を発揮することができた人や、逆に「ゴーレム効果」で力を十分に発揮できなかった人など様々いると思います。自己が確立していない子供たちは、自分自身に自信がなく、不安を抱えている子

供も多いです。

だからこそ、「あなたには、よいところがたくさんあるよ。」「ここを伸ばせば必ずうまくいくよ。」などの言葉をかけることによって、子供は自分の可能性を信じ、自分を伸ばしていけるように努力するのではないのでしょうか。

私たち大人が、子供たちに自信をもたせる言葉を意識してかけられるようにしていきたいものです。

～ 6月の学校行事～



6月4日(水)は、なかよし班花植えを行いました。全校児童が異学年グループで、学校近隣の街路ますに花を植えるという地域に貢献する取組です。また、PTA ボランティアの方々にも共にご協力いただき、コミュニティ・スクールとしての取組も進んでいます。

6月14日(土)は、今年も5年生が稲作体験(田植え)を行いました。市教育委員会、水田管理者、青少年対策栄小地区委員会、保護者ボランティアの皆さんに、たくさんご協力いただきました。子供たちは、地域の資源を生かした体験学習を通して、日本のお米づくりの文化について学びました。初めての体験にワクワクとドキドキが混ざっていたようですが、よく話を聞いて作業を進め、スムーズに行うことができました。農家の方々の仕事や食について、改めて考えることにもつながったのではないかと思います。

栄小学校の子供たちは、多くの保護者や地域の方々に支えていただいているおかげで、友達と協力し、思いやりながら充実した教育活動に取り組むことができています。感謝申し上げます。